

防災セミナー 終了御礼挨拶メモ

稲澤

ただいま、ご紹介いただきました 一般社団法人愛媛県損害保険代理業協会
会長をしております 稲澤でございます。

主催者のひとりとして、一言御礼の挨拶を述べさせていただきます。

先ずは、ここにご参加の皆様、県内より多数のご参加をいただき、長時間にわたる熱心なご聴講まことにありがとうございました。

限られた時間ではありましたが、密度の濃い講演内容であったと思います。

皆様の今後の備えのご参考になれば幸いです。

また、ご講演をいただきました、

愛媛大学 防災情報研究センター 副センター長

愛媛大学 社会共創学部 准教授

二神 透 先生

愛媛県 県民環境部 防災局 危機管理監 薬師寺隆彦 様

一般社団法人 日本損害保険協会 業務企画部 防災安全グループ

グループリーダー 佐々木 修 様

お忙しい中、お時間を頂戴し、貴重なお話をいただき ありがとうございます。
この場を借りまして 厚く御礼申し上げます。

また、ご後援をいただきました

愛媛県、松山市、NHK 松山放送局、愛媛新聞社、南海放送 の皆様にも厚く御礼申し上げます。 ありがとうございます。

今回のセミナーは、当協会としては初めての開催となります。

日々の営業活動の中で県民の皆様と接する機会が多い者としては、司会の方からもご紹介ありましたように、愛媛県は、温暖で自然災害の少ないという安心感をお持ちの方が多く印象を持っております。

地震についても、発生頻度が少なく、起こっても瀬戸内では津波の被害は少なく心配ないと思う方が多い印象があります。

しかしながら、

講演にもありましたように、南海トラフと中心とする巨大地震は、愛媛県におきましても全域に渡り甚大な被害をもたらします。

日本全体が地震の活動期に入っており、いつどこで起きてもおかしくない状況と言えます。

そのために備え、地震が発生しても被害を最小限に食い止めて、早期の復旧ができる体制、地域防災力を高めて参りたいと思います。

また、地震に限らず線状降水帯による局地的大雨、火山噴火、巨大台風、竜巻、集中多発落雷、ゲリラ豪雨、干ばつ、異常乾燥等々世界的に異常気象が発生しております。

50年、100年に一度といった想定的事象が毎年のように発生しております。

言葉としては、リーマンショック以降の経済事象から言われ始め、中国の習体制の経済改革でも使われて、古くなっておりますが、自然現象分野でもニューノーマルと言われる時代となっております。

異常気象が異常でなく当たり前のように起こる災害多発時代を想定した備えが必要です。

我々損害保険代理業協会の仲間、メンバーである代理店は、地域に根づき、地域の皆様に頼られる存在となるべく研鑽を積み、日々活動しております。

地区防災計画の重要性は言うまでもありませんが、地区防災活動の中で我々代理店も一定の役割を果たすことができると思います。

日常生活におきましても、交通事故をはじめ盗難、傷害被害等々様々な危険、リスクがあります。

事故発生時の対応はもとより、事故発生被害を極力抑える防災、減災への取り組みが重要と考えております。

損害保険協会様との高齢者事故防止運動もその一環です。

本日の講演テーマでもあります地震保険の普及も大きな取り組みの一つです。

昨年制度発足 50 周年をむかえ、今年は 51 年目に当たります。

地震保険の付帯率は、2016 年実績で愛媛県は 66,0%、全国平均 62.1%を上回る

ものの四国では最下位となっております。ちなみに、高知県は 84.8%です。

これを、何とか 70%以上にすべく損保協会四国支部愛媛損保会様と共同で特組んでいるところです。

地震保険に限らず、各種保険のお問い合わせは、我々の仲間であるお近くの代理店に何なりとお申し付けください。

よろしく願いいたします。

まさに正しく恐れ、正しく準備してを基本に取り組んで参りましょう。

また、

今回は、視聴覚に障害を持たれている方、災害時には相当に困難な状況になられる方もご聴講されております。ご紹介させていただきます。清家明日香さんです。

熱心なご聴講ありがとうございます。また、それを支えてくださった要約筆記の4名の方々ありがとうございます。

今後の災害時の対応として、高齢者、児童の方に加えて障害を持たれている方々のフォロー、サポートが重要ということに気づきました。今後と課題とさせていただきます。

簡単ではございますが、御礼のご挨拶とさせていただきます。

本日は、まことにありがとうございました。